

## 【展覧会】

# 第15回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…

## ～障害のある人の進行形～



NO-M Aが開館当初から継続して開催し、今回で15回目となる「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」。障害のある作者の「今」の表現と彼らの日常に寄り添う「今」の目線を大切にしてきました。今回は滋賀県内27か所の福祉施設と2つの特別支援学校の職員、1か所の地域の造形教室の講師とNO-M Aが実行委員会を組織し、企画・展示を行います。その人らしく表現すること、表現することの可能性を問う、現在進行形の新たな作品が皆様をお待ちしています。

**会期：**

前期 2018年12月1日（土）

～2019年1月14日（月・祝）

後期 2019年1月19日（土）～2月24日（日）

**会場：**

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

### 【展覧会の見どころ】

- 滋賀県内27か所の福祉施設と2つの特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師と、NO-M Aが合同で企画・展示
- 45人の日々の暮らしの中で制作した造形作品を、二期にわたり紹介します
- 会期中には出展者の制作を深く知る常設ワークショップを開催！

### 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）  
 担当：鈴木・松井・山田 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地の2  
 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

## 展覧会概要

タイトル 第15回滋賀県施設・学校合同企画展 ing... ～障害のある人の進行形～

会 期 前期：2018年（平成30年）12月1日（土）～2019年（平成31年）1月14日（月・祝）  
後期：2019年（平成31年）1月19日（土）～2月24日（日）

会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

開催時間 11：00～17：00

休 催 日 月曜日（祝日の場合は翌日）

観 覧 料 一般200円（150円） 高大生150円（100円） 中学生以下無料  
※障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金

主 催 第15回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～）

後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀

助 成 障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金（滋賀県）

出展施設 [前期] あそしあ、救護施設 ひのたに園、甲賀福祉作業所、さくらはうす、さんさん、しあわせ作業所、信楽青年寮、社会就労センター あおぞら、障害者支援事業所いきいき、バンバン、ふくらの森、放課後等デイサービス第2ももスマイル  
[後期] アトリエひこうきぐも、あんと、伊香立の杜 木輝、えがお、おうみ作業所、きらり庵、滋賀県立近江学園、滋賀県立信楽学園、滋賀県立野洲養護学校、ステップアップ21、にっこり作業所、能登川作業所、ひまわりはうす、ぼかぼか、みどり園

協力施設 滋賀県立八日市養護学校、彦根学園、蛍の里

アドバイザー 野原健司（美術家）

※五十音順・敬称略

## 出展者紹介（広報画像用）

※作者紹介文は、各実行委員がカタログ掲載用として執筆したものです。

### 【前期】

#### 崎元 由美子 Sakimoto Yumiko 1980 年生まれ

『お墓』は、私たちの普通の生活においては、非日常的なものである。しかし、彼女にとってのそれは、とても身近で、心落ち着く存在なのである。

10年ほど前、ヘルプのお出かけで石材店に行ったことがきっかけでお墓に興味を持った。自分の心を掴む祭壇や仏壇の広告でスクラップを作り、「ええやろ」と話す彼女。作業所では主に陶芸の活動に入っており、お皿やランプシェード、干支など、実に様々なものを形にすることができ、本人も「仕事」として売ることを目的にそれらを制作している。そんな中で、疲れた時や休憩の時間につくるものが『お墓』である。粘土で作られるお墓は、本物同様に石材が三段積み上げられ、ロウソク立てもしっかりと作り込まれている。色も「抹茶ミルクやカフェオレの色」と好みの色を調合し、試行錯誤しながら楽しんでいる。

[社会就労センターあおぞら／松本奈美]



①「お墓」 2018年 陶土、釉薬

#### 宗 岬 So Misaki 1995 年生まれ

岬さんは、お気に入りの場所に寝そべって雑誌を読んでいる。

ファッション誌、タウン誌、スポーツ誌。

気分が良いとフフフーンと鼻歌をうたいながら、まずはじっくり眺める。そのうち数枚をまとめて握りクシュクシュと丸めていく。やがて読み終わるころにはふわふわの雑誌ができあがっている。それを無造作に3段ボックスへ突っ込み、気持ちはもう次の新しい雑誌へ…。 [さくらはうす／水流寿子]



②「タイトルなし」 2018年

#### 福井 恒史 Fukui Tsunefumi 1971 年生まれ

彼が絵を描く時は、色鉛筆を使って思いっきり紙に穴が開くぐらいぐると力強く円を描く。

色の選択は目の前にある色鉛筆を右端から取り、芯がなくなるとまた新しいものに取り換え円を描く。

描いている円が何なのかは彼にしかわからないが、描き終わると両手のひらで紙を触って、その感触を楽しんだり、手のひらについた色を見て楽しむ様子がある。

[バンバン／加納厚子]



③「無題」 2016～2018年

#### 山本 恒 Yamamoto Wataru 1992 年生まれ

平成30年1月に甲賀福祉作業所の利用者となる。利用者になってからは、製菓作業一筋でバウムクーヘンの製造を仕事として行っている。仕事を始めて間もなく、空いた時間にバウムクーヘンをPRしようと「バウムマン」を制作された。店舗の至る所に飾り、お客さんの目を引く作品となっている。作品の画材としては、フェルトと段ボールを使用している。作成日数は、仕事を行いながら空いた時間で約2日間である。

[甲賀福祉作業所／香月剛]



④「ミニバウムマン」 2018年

**【後期】**
**岡谷 正司 Okatani Masaji 1962 年生まれ**

ある日、和紙に出会い、色鉛筆を右から左に塗りすすめていくと、もげもげが出てきた。この毛羽立ちは、彼が集中すればするほど、こんもりと現れる。小さな山のように現れると、つまんでしまわれるが、もげもげは小さくなり、他の色に移るため、自由に遊びに行くようだ。

[きらり庵／上田ひろみ]



⑤「れんが」 2018年

**周防 美希 Suoh Miki 1997 年生まれ**

グルーガンからグルーを押し出し作品を作り上げた。

グルーとは本来、物と物を接着するためのスティック状の接着材で、熱で溶かし専用ガンから押し出して使用する。何の芸術性も持たないグルーが、彼女の手にかかると感性あふれる創作物へと姿を変えていくのである。

バットに薄く水を張りその上にスパンコールをばら撒く、そのスパンコールをグルーで繋ぎ合わせていく。不定形な作品がいくつも生み出され、いつしか押し出されたグルーの上に色の異なるグルーがどんどん押し出し積み重ねられてやがて立体作品へと姿を変えていった。そしてグルーから細く、細く伸びるグルーの糸をも作品の中に取り込んでいったのである。

[アトリエひこうきぐも／塚本智映]



⑥「あいす」 2017年

**畑 俊行 Hata Toshiyuki 1974 年生まれ**

造形クラブが始まるとスッとクレパスに手を伸ばし、静かに描き始める。しかし彼が没頭しているのは絵を描くことではない。彼の目的はクレパスのカス集めだ。消しゴムでいうところの消しカスである。

描いたカラフルな四角い絵には無関心で、描く過程で生まれたカスを指でこねては集めている。造形クラブでは全体でテーマを決めて行う時もあるが、そんなことはお構いなしに自分のしたいカス集めをする。またそこが彼らしい。

[伊香立の杜 木輝／向畑健太郎]



⑦「畑俊行」 2017年

**林 達郎 Hayashi Tatsuro 1973 年生まれ**

作業所では、午前中、工場からの下請け作業をするのだが、準備があるので、少し待ってもらわなければならない。その待ち時間、自分で2年程前に考えだしたのが、電話横に置いてあるメモ用紙、新聞の折り込みチラシ、書類など作業所内のありとあらゆる紙製のものに、鉛筆、ボールペン、油性マジック、ホワイトボードペンを使って何かしら描くこと。徹底的に描き込むのもあれば、ピャッピャッとチェックをするだけのものと落差がある。紙が薄い厚いは関係ないらしい。描き終わると破ってごみ箱に捨てる。「破らずにください」と頼んでも、ハッと気付くともうごみ箱の中という日々が続く。運良く、ごみ箱に捨てる前に「ください」とお願いすると手渡してくれる。でもしまっているのを見つけるとやっぱり破って捨てる。見つからない所にしまうのもなかなか至難の技だ。

[能登川作業所／西原祐子]



⑧「タイトルなし」 2016年

## 展覧会関連イベント

### オープニング・ギャラリートーク

作品が語りかけてくるもの、作者や支援者が語ること。展覧会の開催をお祝いして、そっと耳を傾けてみませんか。

日 時：【前期】2018年12月1日（土）13：30～15：00

【後期】2019年1月19日（土）13：30～15：00

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

定 員：20名（要予約）

参 加 費：観覧料のみ

### いつでもだれでもワークショップ

出展者の制作を追体験するようなワークショップを開催します。下記内容から1種類を体験いただけます。

日 時：会期中の開館時間（予約不要）

【前期】クリアファイルで作品づくり（12月1日～12月21日）

ペットボトルで作品づくり（12月22日～1月14日）

【後期】クレヨンでつぶつぶ作り（1月19日～2月8日）

グルーガンで作品づくり（2月9日～2月24日）

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

参 加 費：観覧料のみ

### 【同時開催イベント】 ザ・ベストワンショー ～創作ワークショップ&ステージ～

オリジナルの表現が集まるところ、それがこの「ザ・ベストワンショー」。創作ワークショップの体験ブースが並び、特設ステージではうた、ダンスなどのパフォーマンスがくり広げられます。後半の交流会では、記録映像を上映しながらそれぞれのベストワンを振り返ります。

日 時：2019年2月23日（土）13：30～16：30

会 場：酒遊館（滋賀県近江八幡市仲屋町中6）

定 員：20名（要予約）

参 加 費：観覧料のみ

# 第15回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…

## ～障害のある人の進行形～

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部  
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名（大西暢夫 or Onishi Nobuo）を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：

『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 - )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	① 崎元由美子 「お墓」 2018 年
<input type="checkbox"/>	② 宗 岬 「タイトルなし」 2018 年
<input type="checkbox"/>	③ 福井恒史 「無題」 2016～2018 年
<input type="checkbox"/>	④ 山本 恒 「ミニバウムマン」 2018 年
<input type="checkbox"/>	⑤ 岡谷正司 「れんが」 2018 年
<input type="checkbox"/>	⑥ 周防美希 「あいす」 2017 年
<input type="checkbox"/>	⑦ 畑 俊行 「畑俊行」 2017 年
<input type="checkbox"/>	⑧ 林 達郎 「タイトルなし」 2016 年

### 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)  
担当：山田・鈴木・松井 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2  
TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp